

第2回 高知県地震・津波防災技術検討委員会 議事概要

日時：平成25年2月25日（月）10:00～

場所：高知共済会館3階大ホール「桜」

出席者：別紙

1. 高知県土木部副部長挨拶
2. 委員、幹事の紹介、委員会規約承認
3. 議事

(別途委員会資料を説明)

指導事項等

- 設計津波の対象津波群は、既往津波の痕跡データのうち、信頼度の高いもののなかの津波毎の最大値に基づいて評価していることが分かるようにすること。また、(設計津波の水位の設定における)津波シミュレーション結果については、地域海岸毎に保全対象が背後にある区間の中で最も厳しい条件であることを明記すること。(原准教授)
 - 対応する(事務局)
- 発生頻度の高い津波と最大クラスの津波の津波シミュレーションにおける設定潮位(H.W.L.)については、整合性が取れていることなど、用語の説明に分かりやすく明記すること。(大年教授)
 - 対応する(事務局)
- 現況の堤防高の定義については、地殻変動や液状化による沈下を考慮しているか等、分かりやすく用語の説明に明記すること。(大年教授)
 - 対応する(事務局)
- 県民の頭には最大クラスの津波高の数値がある。これと設計津波高を併記して、どれくらい違う高さなのかを明示すべき。(野仲所長)
 - 対応する(事務局)
- 「L1」、「L2」や「発生頻度の高い」、「最大クラスの」等の使い分けについては地震と津波で意味合いが違うため、定義を明確にすること。ケースバイケースで使い分けが必要と考えられるが、可能な限り呼称を統一していくとよいと考えられる。(大年教授)
 - 総称やソフト対策として呼ぶときは、最大クラスと対比できる名称として「発生頻度の高い津波」。ハード対策、特に海岸堤防等の設計面で使用するときは「設計津波」の呼称としていきたい。(事務局)
- せり上がりは、考慮しない場合どれくらい上昇するものなのか。(平田課長)
 - 今回は概ね50cm程度。(事務局)地形条件により異なるが2～3割上昇するとされている。(大年教授)
- 今後は発生頻度の高い津波である「2003年中央防災会議の津波断層モデル」に基づき設計津波の水位の設定していくことになることになるが、最大クラスの津波高さについても整理しておくことと県民の理解を得られると考えられる。設計津波の水位の設定が諸事情により困難な場合についてはその理由について明確にしておくこと。(野仲所長)
- 浦戸湾内の設計津波の水位の設定については、その他の地域海岸とは違った形で進めていくことになる。具体的には、第1線の防護ラインである防波堤、第2線の防護ラインである種崎、桂浜、第3線の防護ラインである浦戸湾内のそれぞれについてシミュレーション等を実施して設定していく予定である。まずは、来年度6月末を目途に基本的な考え方を示す予定である。(西村所長)

今後の工程

今後の工程については、他の地域海岸の設計津波水位を含み、平成25年6月末を目途に委員会を開催する。

(別紙)

委員会出席者

所 属	役 職	氏 名	備考
委員 高知大学農学部	教授	大年 邦雄	
高知大学農学部	准教授	原 忠	
国土交通省高知河川国道事務所	所長	野仲 典理	
国土交通省高知港湾・空港整備事務所	所長	西村 拓	
高知県土木部	副部長	野村 満雄	途中退席
幹事 危機管理部南海地震対策課	課長	堀田 幸雄	
林業振興・環境部治山林道課	課長	安岡 泰平	
水産振興部漁港漁場課	課長補佐	山本 寿幸	代理
土木部土木企画課	課長	平田 幸成	
土木部河川課	課長補佐	竹崎 幸博	代理
土木部港湾・海岸課	課長	本田 賢児	